

令和4年度山口県立大学大学院

国際文化学研究科国際文化学専攻入学試験問題

(総合試験)

問題は、全部で6問あります。

「英語を選択する一般選抜受験者」「英語を選択する社会人選抜受験者」「外国人留学生選抜受験者」は、6問のうちから2問を選び、解答してください。

「英語を選択しない一般選抜受験者」と「英語を選択しない社会人選抜受験者」は、6問のうちから3問を選び、解答してください。

問1

異なる文化に接する際の心構えとして「郷に入っては郷に従え」ということばがある。一方で、外国人労働者との共生を考えるうえでは労働力の受け入れのみならず、彼・彼女らの文化的背景についての理解が重要だと言われている。自分と異なる社会・文化的状況と遭遇した際に、自分のことをどのように説明し、相手のことについてどのように共感し合うことができると思うか。グローバル時代における双方向型文化理解という観点から、自らの経験などの具体的な例を挙げながら1000字以内で述べなさい。

問2

「日本文化と仏教」というテーマで、あなたの知るところ・考えるところを1000字以内で述べなさい。

問3

コロナ禍により人の国際移動が制限され、オンラインで世界とつながる事例が一般的になった。一方で、ウィズコロナやアフターコロナに向けて徐々に国際観光やビジネス、留学などによる移動も再開されつつある。人間が直接移動して対面の上で交流するケースと、インターネット等のICT技術等を介して交流するケースの2つについて、それぞれのメリットやデメリット(恩恵や問題点など)について事例をあげ、対策や効果、課題について1000字以内で述べなさい。

問 4

以下のAからDの項目について、あなたが重要だと思う順に並べ換え、その理由を適宜、具体的事例も挙げながら1000字以内で述べなさい。

(解答の冒頭に、順番について A から D の記号を用いて明快に記述すること)

- A. かつての産業施設を活かした観光促進を進める市民プロジェクトに参加する。
- B. 近所の古民家改修に関わるボランティア活動に参加する。
- C. 紛争による危機から世界の文化遺産を守るため寄付をする。
- D. 身近な地域の史跡を解説するボランティアガイドとして活躍する。

問 5

『新青年』2巻5号(1917年)において、アメリカ留学中の胡適が「文学改良芻議」を発表し、以下の8項目の提案を行なった。これには、文章表現において古典中国語(文語)を使用せず、口語を使用し、言文一致(話すように書く)を実現する目的があった。

これら8項目のうち(1)(6)(7)(8)について、古典中国語の文章表現の何(どういうこと)が批判されているのか、それぞれ解説しなさい。

また、なぜこのような言文一致の必要性が主張されたのかを、具体的な例を挙げながら1000字以内で述べなさい。

- (1) 表現は内容をともなわなければならぬ。
- (2) 古人を模倣してはならない。
- (3) 文法にあっていなければならない。
- (4) 無病の呻吟をしてはならない。
- (5) 陳腐な決まり文句を避けよ。
- (6) 典故を使ってはならない。
- (7) 対句を重んじない。
- (8) 俗語俗字を避けない。

問 6

「クリエイティブ」、「新技術」、「身近なモノ・コト」が関わることによって生まれる価値や仕組みについて、あなたの考えや提案を具体的な事例とあわせて述べなさい。

解答については「1000字以内の文章」か「絵図と400字以内の説明文」のいずれかで答えなさい。